

定例記者会見発言録

日 時：令和4年1月6日（金）14時～
場 所：伊達市役所東棟4階 401・402 会議室
出 席：市長、副市長、総務部長、未来政策部長、財務部長、
健康福祉部長、健康対策参事、市民生活部長、教育部長、こども部長
報道機関：福島民報社、福島民友新聞社、読売新聞社、福島中央テレビ
伊達市ケーブルテレビ
発表項目：市長から下記の内容について、別紙資料により説明

	年頭のあいさつ
資料1	新型コロナウイルス感染症の予防接種 追加接種（3回目接種）事業概要
資料2	伊達市ウエルネスサロン白根の愛称が決定
資料3	伊達市福祉灯油給付事業の実施
資料4	令和4年伊達市成人式の開催
資料5	令和3年度伊達市立志式の開催
資料6	「3代目伊達な宣伝部長」が決定

《質疑応答》-----

年頭のあいさつ関連

■時期（前倒し）関連

記 者 年頭のあいさつの中で、成長と安心というキーワードがありました。伊達や保原町はいろいろと開発が進んでいるように感じますが、梁川町については、市長としてどのようにお考えですか。この一年は減災、防災、台風からの復旧も含めてどうですか。

市 長 梁川町につきましては、令和元年東日本台風で大きな被害を受け、そして今までしっかり復旧にしっかり進めてまいったと考えております。地理的な問題がありまして県境に接しているということで、現在の梁川町の状況は高齢化が進んでいる、そして人口が減少している、過疎指定もされたということを踏まえ、今後、交流人口を拡大させるための施策をしっかりと進める必要があると思っております。伊達市だけではなくて隣の県、丸森町や角田市などと交流を促進させていくことによって、広域的な交流促進をしっかりと図っていく、それによって梁川町の振興も図れるのではないかと考えております。確かに伊達や保原町と比べると人口の減少率が大きくはなっていますが、そこは今後、交流促進をしっかりと図りながら、人口の拡大とはいかなくても若い人たちの定

住をしっかりと進めていくようなまちづくりをしていきたい。

新型コロナウイルス感染症の予防接種追加接種（3回目）関連

■時期（前倒し）関連

記者 ワクチンの件ですが、3回目接種の計画を出しましたが、この計画はスピーディーな対応だと思われませんか。

市長 ワクチン接種につきましては、始めは国から8カ月を経過した人を原則とするという話がありました。最初の予定については、12月から始まっている医療機関や、高齢者施設などは予定を立てておりましたので、早めることはできませんでした。その後の高齢者については、できるだけ前倒しするように接種の人数を増やしたりして進めてまいりたい。私としてはできる限りの前倒しの実施をさせていただいていると思います。

その他

■大型商業施設関連

記者 大型商業施設ができることによって、保原や梁川の商店街とどのように共存共栄を考えていますか。

市長 大型商業施設に訪れる方は通常の買い物とは別の方々だと思っております。大型商業施設は、どちらかという楽しむ場所だと私は捉えていますので、商店街の買物のニーズとは違うと思っています。ただ、商店街の皆さんは非常に心配されておりますので、施設の中にアンテナショップなどを市がかかわりながら設置をさせていただいて、その中で伊達市の商店街の魅力ある商品をPRしてもらって、本来の商店街に行ってもらって買い物をしてもらおうなど、そういった取り組みをまずはさせてもらいたいと思っております。それから市としましては魅力ある商品づくりのための支援をしっかりとしていきたいと思っております。商品開発への補助とか、商店の改装など、今までに増して予算を確保して進めていきたいと思っております。

■伊達市新工業団地関連

記者 12月に募集をかけた工業団地の誘致の進捗状況はどうでしょうか。

市長 今はまだ募集の途中で、複数社から相談を受けております。正式に入りたいという企業もございます。その数字についてはまだ申し上げるわけにはいきませんが、地理的なことを考え、また高速道路にも近い、街にも近いと考えたときに企業が興味を持っていただいているなど感じております。

■保原認定こども園関連

記者 保原の新しい認定こども園について、市長は昨年11月に段階では、明確な開園時期は決まっていないと記者会見でおっしゃられたと思いますが、今の段階

での事業者の方との話し合いの中で開園時期について決まったことがあるのかということと、現段階で決まっていなければ、いつまでに開園時期を示されるのかについてお伺いします。

市長 保原の認定こども園につきましては事業者を決定しておりましたが、やはりコロナの影響、木材の高騰などがありまして、事業者から断念をしたいと話を受けております。市といたしましてはこの事業者が、開園に向けた整備を進めることは難しいと考えておりますので、新たに事業者の募集をしまして整備を進めていきたいと思っております。ですから開園の時期については、新たな事業者が決定次第、打ち合わせをしながら開園時期を定めていきたいと思っておりますので、令和4年度内での開園は難しいという状況になっています。

記者 事業者から断念をしたいというお話ですが、その理由についてコロナや資材高騰などあったと思うんですけど、市で選定した事業者ということで、事業者選定の段階でチェック等の問題はあったかどうかについてどうお考えですか。

市長 収益状況が厳しくなったということですので、最初の決定の段階でそこまで想定することは市として難しかったのかなと思います。

■バイオマス発電関連

記者 バイオマスの件をお聞きします。今の進捗、市としての対応はどうですか。

市長 バイオマス発電につきましては、先日、12月21日に東北経済産業局に伺いまして市としての考え方を話しております。その内容につきましては、こういった再生可能エネルギーを実施する際に、国が許認可を持っておりますが、地方自治体がそれに直接かかわることができないということは、やはり地域の声をしっかり反映できないのではないかと話をさせていただきまして、制度の変更等を求めてきたところなんです。それに対して明確な答えはいただいておりますが、現在の梁川のバイオマス発電の状況についてもお話をさせていただきます。国からは改めて事業者に対して伊達市、市民の不安を解消するようにしっかり説明をするように指導すると聞いております。今後につきましては市として、事業者からの説明があると思いますので、その説明の内容について市民団体と共に話を聞き、市としての考え方、市民団体の意見をまとめたうえで、事業者に申し上げていきたいと思っております。